

神奈川県立歴史博物館との連携事業の経過報告

鎌倉学園高校 風間 洋

日本史研究推進委員会は、3年前より新課程の歴史科目導入を見据えて、神奈川県立歴史博物館(以下、県博)の学芸員の助言を受けながら神奈川県内や県博の所蔵資料を用いた授業モデルの開発・集積に努めてきた。2025年度も月例会の中で、年間5回の連携例会を開催することが出来た。概要は以下の通り。

①5/28 桐生海正(県立足柄高校)…「松平造酒助江戸在勤日記」(県博蔵)を教材化した近世の都市江戸の理解、「ペリー提督日本遠征記」(県博デジタルアーカイブ)等の読み取りから西欧諸国と日本の関係の変容の考察。本田六朗(平塚湘風高校)…「神奈川県鳥瞰図」(県博蔵)を用い、その作成意図や時代背景を読みとり、日本の大衆化の理解をはかる。

②7/9 矢野慎一(県立翠嵐高校)…幕末に定められた外国人の遊歩範囲が示された「神奈川県下外国人遊歩規程三角網図」を用いて解説、時代背景を考察する。井上渚沙(県立大磯高校)…幕末開港時に横浜で海外輸出用に生産された真葛焼(館蔵資料)等を題材に幕末期の横浜や、欧州のジャポニズムの広まりを考察。

③10/20 風間洋(鎌倉学園高校)…「建久2年9月付源頼朝下文」(県博蔵)と同日付に発給された「政所下文」を読み解き、時代背景の考察から中世社会の特質を発見させる。

④11/9(水) 秋田大地(県立霧が丘高校)…「ウィリアム女史日本記念蒐集資料」(県博蔵)を用いた外国人から見た明治期の日本社会や世界情勢の考察に及ぶ。時任竜也(県立川崎高校)…幕末に川崎で村役人を務めた鈴木藤助が記載した「藤助日記」(県博蔵)を用い、幕末のペリー来航時における地域の様子を考察する。

⑤2026年1/14(水) 林晃之助(逗子開成高校)…幕末の開港地・居留地としての横浜の特徴を「改良横浜全図」(県博蔵)を用い、フィールドワークを実践することで理解を深める。須藤智夫(県立白山高校)…地域の歴史の重要性・親近感を生徒に抑えさせ、学校図書館や博物館との連携も視野に入れたテーマ設定の状況を集成・分析を試みた。

県博には原始・古代～近現代・民俗まで各専門の学芸員が揃っており、各教員は自身実践したい教科・時代の単元を担当学芸員と相談し、県博所蔵の中で単元教材として適切な歴史資料の提供を受けて授業モデルを作成する。これを再び学芸員と共有し、研究者の立場から資料の扱いや解釈などの助言を受けてブラッシュアップし、例会で報告している。毎回例会の質疑・討論の場では、厳密な資料解釈や現在の研究状況等を踏まえた歴史学(学芸員)と、生徒への教育効果や教科単元との親和性にこだわる歴史教育(教員)の立場から意見が出され、スタンスの違いを踏まえたクロストーク自体が、実りある成果と感じている。これらの成果(授業の狙いや展開のフォーマット・使用資料・授業プリント等)はデータベースに集積されており、将来は誰でも活用できるように何らかの形で公開したいと考えている。現在の授業モデルは日本史を主とする事例が多いが、県博には幕末以来の貿易港横浜を中心とした海外情勢に関する資料や、対外関係史に詳しい専門学芸員も擁しており、「世界史探究」の内容にも十分対応できるだろう。現在閉館中の県博も来年9月には開館予定であり、特別展や館蔵の歴史資料を実見・活用する機会も増やしていくつもりである。今後も本連携事業は一層の充実を目指していくが、日本史・世界史の枠組みを超えた多くの教員の参加をお待ちしている。